

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム にこトピア加美
(ユニット名)	ひまわり
所在地 (県・市町村名)	宮城県加美郡加美町字町裏八番70-1
記入者名 (管理者)	中鉢 律子
記入日	平成 20年 8月 15日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	職員全員の思いをまとめ、GHの理念を作り、毎朝のミーティング時に唱和しています。毎週月曜日のデイサービスとの合同ミーティングでは、母体であるグループの理念も唱和しています。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎日のミーティングで理念を唱和し、1日の始めに気を引き締めて仕事に取り組んでいます。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ご家族には、契約時に理念の説明をし、ご理解を得ています。地域の方々には、運営推進会議等を通じてお話する機会を設け、理解して頂ける様にしています。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	隣近所の方々にお会いした際は、笑顔で挨拶を交わしたり、差し入れを頂いたり、回覧板をまわしていただく等、気軽に立ち寄れる様なお付き合いをしています。利用者の買い物や理容等も、近所のお店を利用することで、交流を持つように努めています。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	2回/月の音楽療法のボランティアの方、小学校のボランティア(掃除やコミュニケーション、虎舞い)との交流、近隣のボランティア(合唱クラブ、マジックショー)等、地域の方々との交流を持ち、利用者様の笑顔がより多く見られるように努めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年はミニデイサービスを開催し、口腔体操やレクリエーション等をする中で、困ったことなどを聞く機会を設けていました。	○	今年も機会を設けて、活動していきたいと思います。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年同様、スタッフ全員に自己評価を記入してもらい、意義を理解するよう取り組みました。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の評価報告、同じ系列の施設見学、GH内の利用者やサービスの実際報告、地域の情報等話し合った内容は、朝礼やリーダー会議等で報告し、スタッフ全員が周知し、サービス向上に活かしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターの依頼で、在宅で認知症の方の介護をしている方の家族を招き、認知症の学習会を開催しました。また、問い合わせ等あった場合は、常時相談にのっています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	生活保護の方で、成年後見制度を活用されている利用者がおられるので、カンファレンス等では話し合う機会もありますが、詳しいところは勉強会で学んでいこうと思っています。	○	1回/月色々な分野での勉強会を開催しているので、権利擁護に関する勉強会開催も近々予定しています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	パンフレットをスタッフに配布し、日々注意を払い、防止に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとって、家族・利用者に説明し、同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しております。また、苦情、不満は、その都度スタッフ間で連絡をとり、早急に対処できるようにしています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時に、金銭チェック表を定期的(月1回)に確認していただいています。健康状態が思わしく無い時は、電話連絡してスタッフが対処しています。また、1回/2カ月お便りにて、利用者の暮らしぶり、現状の報告をしています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情処理の説明、ご意見箱を設けています。また、その都度、各ユニットのリーダーまたは管理者を中心に、スタッフ全員が話しやすい雰囲気をつくるように心がけています。また、外部者への苦情は、区長さんに依頼しています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に月1回、業務カンファレンス・リーダー会議を設け、スタッフの意見や提案を聞けるようにしています。又、毎朝のミーティングの際、1分間スピーチを順番で行い、職員の気付き、提案等を聞く機会を設けています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者をフリーとして、状況に応じた対応が出来るようにしているため、利用者の状態変化に応じた柔軟な体制をとっています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの顔を作るため、各ユニットの配置換えは行なっていませんでしたが、ユニット間の交流等で、他のユニットスタッフにも馴染んできた頃なので、近々行なう予定です。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じ、レベルに合わせた研修を受けるようにしています。また、同じグループ内でも、研修トレーナー制度を用い、研修しています。研修簿を作り、希望者は出来るだけ受けて頂くようにしています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のGHとの交換研修を随時行なっています。また、宮城県GH協会に加入し、スタッフの交換研修、勉強会に参加しています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃スタッフに声がけし、話をしやすい、打ち解けた人間関係を作るようにしています。また、スタッフ同士の人間関係を把握するよう努めています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	評価制度を用い、各々の実績をつけています。研修セミナーの希望を募り、参加できるように取り組んでいる。また、資格を取れるようにバックアップしています。年初めには、職員の短期目標、長期目標をかかげ、達成できるよう心掛けています。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	実調時、または訪問時に本人にお会いし、不安・困っていることを傾聴する機会をつくり、受け止める努力をしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み時、実調時、契約時にその都度相談を受けています。その他、不安な事などは、電話等で話し合う機会を多く持つよう心掛けています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャー、管理者を中心に、スタッフを含めてケースカンファレンスを開き、検討しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	直接利用者に、施設見学をして頂いたり、何度か訪問したり、すぐ入所した方は、出来るだけ馴染みの人に来ていただき、安心感を持っていただくようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入浴や散歩付き添いの際に、普段話にくいことや、悩み等を話せる雰囲気作りをしています。個人の生活に関わりながら、共に考え、理解し合えるよう心掛けています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡をまめにとりながら、利用者にとって1番良い方向に行くように協力しています。面会時等、気軽に話せる雰囲気作り心掛け、お茶を召し上がっていただきながら、利用者の日頃の状況、連絡等お話しています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、利用者の家庭環境、生い立ちの理解に努め、より良い関係が築けるよう支援しています。		
30	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の自宅付近の行事等がある際、自宅まで行き、行事に参加し、馴染みの方や場所に触れる機会を設けている。また、馴染みの方の面会時、スタッフが、利用者様が来訪を心待ちにしている旨お話ししたりと、来訪しやすいような雰囲気作りをするよう心掛けています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎朝のミーティング、申し送り、1回/月のケアカンファレンスで、利用者同士の関係について話し合う機会を設け、ひとりが孤立することのないよう、座席の配置換えを考慮したり、トラブルの際には、スタッフが間に入り関係悪化を防ぐよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所しても、自宅へ赴いたり、電話で近況を聞くようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方には、ご家族等から情報を得るようにしています。本人にとってどのように暮らすのが1番なのか、普段の会話を通じて利用者本人の思いを引き出しながら、又、家族と連絡をとりながら、検討しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調・契約時、また、利用後も面会時等、ご家族・関係者から、折に触れ聞くようにしている。ご本人からも、生活の中で、折に触れきいています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	おおまかな生活パターンは把握できているが、心身状態は1日の中でも変化する部分もあるので、難しいところですが、把握できるよう努力しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が、その人らしく暮らせるように、日頃の生活の中で、本人、家族へ、思いや要望を聞き、アセスメントを含め、スタッフ全員で話し合い、利用者本意の介護計画の作成に近づけるようにしています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況・効果等をスタッフが、利用者の状態変化や状況に応じて、見直しを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや、利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、気づきノートを活用し、また、毎朝のミーティング、申し送り、月1回カンファレンスにて、スタッフ間の情報共有を行い、実践や介護計画の見直しに活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者家族の状況に応じて、通院、送迎等必要な支援は臨機応変に対応しています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が、安心して地域での暮らしを続けられるよう、警察、消防等を連絡、講習会を開催しておりまた、区長、包括支援センターとは、運営推進委員会で情報交換する機会を設けています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況や、希望に応じて他の事業所・外部のケアマネージャと連携を図っています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度が必要と思われる利用者には、地域包括支援センターと協力して、利用できるよう支援し、後見人が見つかるまで、受薬・受診等、包括支援センターの方々に協力して頂きました。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医に、できるだけ受診できるように支援しています。遠距離の場合には、協力医療機関に受診して頂いています。また、受診や通院はご本人やご家族の希望に応じて、対応しています。基本的には、家族同行の受診となっていますが、状況に応じてスタッフが代行しています。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	往診して頂ける病院を探している段階です。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	往診して頂ける病院を探している段階です。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常日頃より、利用者を尊敬・尊厳することをスタッフに声がけし、浸透するようにしています。他家族や、外来者に対して、本人のプライバシーに関する情報は、漏らさないように徹底しています。本人の誇りを傷つけるような言い回しをせず、本人の意欲を高めるような言葉掛けを心がけています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	各々利用者の状態に合わせた説明の仕方をし、ちょっとしたこと(好きなメニュー・行きたい所等)でも、本人が選択できる場面を作っています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人一人の状態や思いにより、出来るだけ個別性のある支援をしています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えは利用者の好みに任せているが、自分で決定しにくい利用者にはスタッフが一緒に考えて選んでいます。整髪は、以前から行きつけの理容室で行なったり、利用者に髪の長さ、顔剃りなど、本人の意向を聞いています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材・利用者の好みを取り入れながら、利用者と相談して、メニューを作ったりしています。利用者の状態に合わせて、一緒に食事の準備、片付けをしています。パン・麺類メニューの時は、その都度好みを聞き、嫌いな方には、ご飯を提供しています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	スタッフは、利用者の嗜好を把握し、利用者とおやつを買いに行ったりと、好みに合わせるようにしています。タバコを嗜好される利用者は、現在のところいらっしゃいません。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を表にチェックし、把握しながらトイレ誘導することで、トイレでの排泄を促しています。また、トイレの場所が分かりやすいように目印をつけています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めるのではなく、利用者とその日の希望を聞き、時間順番を決めています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えています。寝付けないときには、一緒に飲み物を飲む等し、くつろいだ雰囲気でお話する等の支援をしています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・草取り・料理・片付け・雑巾縫い・カラオケ等、利用者の得意とすることに力を発揮して頂ける様にしている。そして、感謝の気持ちを述べ張り合いや喜びへと繋げています。また、ドライブ等の時には、利用者と一緒に相談しながら、行き先を決めています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、小額のお金を持っている方もいます。家族より、お金をお預かりし、事業所が管理している利用者でも、何か入用な場合にはお金をお渡しし、スタッフが同行し、買い物にいくようにしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の気分・希望に合わせて、買い物・ドライブ・日常的な散歩に出かけています。2回/月施設の周りを散歩するのが日課になっている利用者、畑仕事を楽しみにされている利用者もおられます。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない遠距離への外出は、計画を立て、実施日はスタッフの人数を増やしたり、ボランティアで出してもらったりと調整しています。家族に協力して頂くこともあります。月1回以上、ドライブにいけるよう、心がけています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望・願いに応じ、家族と連絡が取れるように自ら電話を掛けて頂いたり、家族に利用者の思いをお話したりしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設けず、いつでも気兼ね無く過ごして頂ける様に尋ねてきた方には笑顔で接しています。また、家で飼っていたペット(犬)をホールに連れてきて頂いたりしています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎朝のミーティング、申し送り、カンファレンス等で、スタッフ各々が利用者のケアを振り返り、話し合っています。夜間ベッドから落ちる危険のある利用者については、家族に了解を得て、畳に寝て頂いたり、夜間はセンサーを使用し、転倒防止に努めています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を見たら、声を掛け、本人の思いを聞きながら、出来るだけそれに添えるように、一緒に外に出たり、話を十分に聞いたり、鍵を掛けない努力をしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者と同じ空間で、記録などの事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めています。夜間は、数時間毎に利用者の様子を確認すると共に、居室が見通せる場所で休むなど、24時間利用者の安全に配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて全てを取り除くのではなく、ケースに応じた対応をしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリ・ハット、事故報告書を作成し、職員の共有意識を図っています。また、緊急時対応マニュアルを作成し、備えています。見守りは必ずいるよう、職員同士の声掛けを行っています。転倒防止の為、1点杖から4点杖への変更、夜間のセンサー使用等行なっています。また、消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を実施したり、看護婦による看護についての勉強会を開催しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時対応マニュアルを作成し、周知・徹底を図っています。消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修(2回)を実施しました。	○	実際の場面に活かせるよう、定期的に訓練していきます。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアル作成し、年に二回、利用者との避難訓練を行っています。また、消防署の協力を得て、消火器の使い方の訓練も行っています。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけ、何人かの近隣の方に参加いただきました。	○	次回の訓練は、夜間を想定して行います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者各々に起こりえるリスクについて、家族と話し合い、その都度対応し、自由な暮らしが出来るように支援しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握し、日に二回バイタルチェックを実施しています。体調変化があった場合はバイタルサインのチェック・状態記録をし、看護師に報告・対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストの作成をし、すぐに確認できるようにしています。服薬事は本人に手渡しし、きちんと服用しているか確認しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排泄チェックをしながら、白米に玄米を混ぜたり、食物繊維の多い野菜を取り入れ、調理したりと工夫しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の気持ちに配慮しながら、一人一人の力に応じて、スタッフが見守ったり、介助を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、スタッフが情報を共有しながら、利用者の状態に合わせて、支援しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、早期発見・早期対応に努めています。利用者及び家族に同意頂き、スタッフ共にインフルエンザ予防接種を行っています。また、ノロウイルス対策として、ペーパータオルの使用・次亜塩素酸入り消毒液を使用し、掃除等に活用しています。空気清浄機も活用しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾等は、毎日漂白・洗濯し、清潔を心がけています。食材はほぼ毎日、食材会社より直送され、すぐに冷蔵、冷凍庫に保管し使い切るようにしています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の近くに花壇を作り、花や野菜を植え、季節感ができるようにしています。利用者や近隣の方が立ち寄った際に一息つけるよう、ベンチを設置しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔ながらの飾りを取り入れたり、利用者間の人間関係を考慮してのテーブル配置をしています。また、包丁の音、食器を洗う音、調理時の香り等による五感の刺激も大切にしています。夜間は、廊下等にセンサーライトを設置し、光の調整をしています。室内の飾り等に季節感を持たせるよう、生花を飾ったりと工夫しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや玄関外に椅子やベンチ、リビングにソファを設置する等、1人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を飾ったり、掲示したり、仏壇を持ってこられたり、また、家から持ってきた馴染みのものを飾ったりと、居心地の良い居室作りに心がけています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の表情・状態を見ながら、温度、湿度計を見て、換気・冷暖房の調節をしています。空気清浄機も活用しています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に合わせて、浴室・トイレ・廊下・居室等の居住環境に、手すりを付ける等して、安全確保と自立への配慮をしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・居室等に、飾りつけをする等、状況に合わせて環境整備に努めています。スタッフ間で、カンファレンスを行い、利用者一人ひとりが、なにが分からないのか、どうすれば出来るのか、日々検討しています。各居室の戸に大きく名前を表示し、混乱の無いように工夫しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りを散歩できるようにしたり、また、庭に花や野菜を植えたり、玄関外にベンチを置き涼んだりしています。また、リビングから見える所に、花壇を作り、花の鑑賞が出来るように工夫しています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

敷地内に旧家を改装したデイサービスを併設。合同で行事を開催するなど、互いの利用者が交流し、楽しく過ごされています。また、セラピー犬として犬を飼っていましたが、老犬のため、体調が思わしくなく、スタッフの家で飼うことになったため、代わりに動くぬいぐるみ(犬、猫)を購入し、セラピーとして活用しています。動物が大好きな利用者が多いため、時々、スタッフや御家族様のペットを連れてきていただいています。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム にこトピア加美
(ユニット名)	あさがお
所在地 (県・市町村名)	宮城県加美郡加美町字町裏八番70-1
記入者名 (管理者)	中鉢 律子
記入日	平成 20年 8月 15日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	職員全員の思いをまとめ、GHの理念を作り、毎朝のミーティング時に唱和しています。毎週月曜日のデイサービスとの合同ミーティングでは、母体であるグループの理念も唱和しています。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎日のミーティングで理念を唱和し、1日の始めに気を引き締めて仕事に取り組んでいます。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ご家族には、契約時に理念の説明をし、ご理解を得ています。地域の方々には、運営推進会議等を通じてお話する機会を設け、理解して頂ける様にしています。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	隣近所の方々にお会いした際は、笑顔で挨拶を交わしたり、差し入れを頂いたり、回覧板をまわしていただく等、気軽に立ち寄れる様なお付き合いをしています。利用者の買い物や理容等も、近所のお店を利用することで、交流を持つようにしています。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	2回/月の音楽療法のボランティアの方、小学校のボランティア(掃除やコミュニケーション、虎舞い)との交流、近隣のボランティア(合唱クラブ、マジックショー)等、地域の方々との交流を持ち、利用者様の笑顔がより多く見られるように努めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年はミニデイサービスを開催し、口腔体操やレクリエーション等をする中で、困ったことなどを聞く機会を設けていました。	○	今年も機会を設けて、活動していきたいと思います。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年同様、スタッフ全員に自己評価を記入してもらい、意義を理解するよう取り組みました。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の評価報告、同じ系列の施設見学、GH内の利用者やサービスの実際報告、地域の情報等話し合った内容は、朝礼やリーダー会議等で報告し、スタッフ全員が周知し、サービス向上に活かしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターの依頼で、在宅で認知症の方の介護をしている方の家族を招き、認知症の学習会を開催しました。また、問い合わせ等あった場合は、常時相談にのっています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	生活保護の方で、成年後見制度を活用されている利用者がおられるので、カンファレンス等では話し合う機会もありますが、詳しいところは勉強会、研修会で学んでいこうと思っています。	○	1回/月色々な分野での勉強会を開催しているので、権利擁護に関する勉強会開催も近々予定しています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	パンフレットをスタッフに配布し、日々注意を払い、防止に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとって、家族・利用者に説明し、同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しております。また、苦情、不満は、その都度スタッフ間で連絡をとり、早急に対処できるようにしています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時に、金銭チェック表を定期的(月1回)に確認していただいています。健康状態が思わしく無い時は、電話連絡してスタッフが対処しています。また、1回/2カ月お便りにて、利用者の暮らしぶり、現状の報告をしています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情処理の説明、ご意見箱を設けています。また、その都度、各ユニットのリーダーまたは管理者を中心に、スタッフ全員が話しやすい雰囲気をつくるように心がけています。また、外部者への苦情は、区長さんに依頼しています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に月1回、業務カンファレンス・リーダー会議を設け、スタッフの意見や提案を聞けるようにしています。又、毎朝のミーティングの際、1分間スピーチを順番で行い、職員の気付き、提案等を聞く機会を設けています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者をフリーとして、状況に応じた対応が出来るようにしているため、利用者の状態変化に応じた柔軟な体制をとっています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの顔を作るため、各ユニットの配置換えは行なっていませんでしたが、ユニット間の交流等で、他のユニットスタッフにも馴染んできた頃なので、近々行なう予定です。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験年数に応じ、レベルに合わせた研修を受けるようにしています。また、同じグループ内でも、研修トレーナー制度を用い、研修しています。研修簿を作り、希望者は出来るだけ受けて頂くようにしています。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣のGHとの交換研修を随時行なっています。また、宮城県GH協会に加入し、スタッフの交換研修、勉強会に参加しています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日頃スタッフに声がけし、話をしやすい、打ち解けた人間関係を作るようにしています。また、スタッフ同士の人間関係を把握するよう努めています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>評価制度を用い、各々の実績をつけています。研修セミナーの希望を募り、参加できるように取り組んでいる。また、資格を取れるようにバックアップしています。年初めには、職員の短期目標、長期目標をかかげ、達成できるよう心掛けています。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>実調時、または訪問時に本人にお会いし、不安・困っていることを傾聴する機会をつくり、受け止める努力をしています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申し込み時、実調時、契約時にその都度相談を受けています。その他、不安な事などは、電話等で話し合う機会を多く持つよう心掛けています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャー、管理者を中心に、スタッフを含めてケースカンファレンスを開き、検討しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	直接利用者に、施設見学をして頂いたり、何度か訪問したり、すぐ入所した方は、出来るだけ馴染みの人に来ていただき、安心感を持っていただくようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入浴や散歩付き添いの際に、普段話にくいことや、悩み等を話せる雰囲気作りをしています。個人の生活に関わりながら、共に考え、理解し合えるよう心掛けています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡をまめにとりながら、利用者にとって1番良い方向に行くように協力しています。面会時等、気軽に話せる雰囲気作り心掛け、お茶を召し上がっていただきながら、利用者の日頃の状況、連絡等お話しています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、利用者の家庭環境、生い立ちの理解に努め、より良い関係が築けるよう支援しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の自宅付近の行事等がある際、自宅まで行き、行事に参加し、馴染みの方や場所に触れる機会を設けている。また、馴染みの方の面会時、スタッフが、利用者様が来訪を心待ちにしている旨お話ししたりと、来訪しやすいような雰囲気作りをするよう心掛けています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎朝のミーティング、申し送り、1回/月のケアカンファレンスで、利用者同士の関係について話し合う機会を設け、ひとりが孤立することのないよう、座席の配置換えを考慮したり、トラブルの際には、スタッフが間に入り関係悪化を防ぐよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所しても、自宅へ赴いたり、電話で近況を聞くようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方には、ご家族等から情報を得るようにしています。本人にとってどのように暮らすのが1番なのか、普段の会話を通じて利用者本人の思いを引き出しながら、又、家族と連絡をとりながら、検討しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調・契約時、また、利用後も面会時等、ご家族・関係者から、折に触れ聞くようにしている。ご本人からも、生活の中で、折に触れきいています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	おおまかな生活パターンは把握できているが、心身状態は1日の中でも変化する部分もあるので、難しいところですが、把握できるよう努力しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が、その人らしく暮らせるように、日頃の生活の中で、本人、家族へ、思いや要望を聞き、アセスメントを含め、スタッフ全員で話し合い、利用者本意の介護計画の作成に近づけるようにしています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況・効果等をスタッフが、利用者の状態変化や状況に応じて、見直しを行っています。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや、利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、気づきノートを活用し、また、毎朝のミーティング、申し送り、月1回カンファレンスにて、スタッフ間の情報共有を行い、実践や介護計画の見直しに活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者家族の状況に応じて、通院、送迎等必要な支援は臨機応変に対応しています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が、安心して地域での暮らしを続けられるよう、警察、消防等を連絡、講習会を開催しております。区長、包括支援センターとは、運営推進委員会で情報交換する機会を設けています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況や、希望に応じて他の事業所・外部のケアマネージャと連携を図っています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度が必要と思われる利用者には、地域包括支援センターと協力して、利用できるよう支援し、後見人が見つかるまで、受薬・受診等、包括支援センターの方々に協力して頂きました。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医に、できるだけ受診できるよう支援しています。遠距離の場合には、協力医療機関に受診して頂いています。また、受診や通院はご本人やご家族の希望に応じて、対応しています。基本的には、家族同行の受診となっておりますが、状況に応じてスタッフが代行しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の状態に合わせて家族と話し合い、認知症専門医・精神科を受診し治療を受けられるよう支援しています。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が2人おり、常に利用者の状態変化に応じた支援を行えるようにしています。24時間体制で、連絡がつくようにしています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、家族と連絡調整しながら、定期的に見舞うようにし、医療機関と情報交換しながら、なるべく早く退院できるようにアプローチしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師や家族と連携をとり、終末期の利用者は、出来る限りギリギリまでホームで過ごして頂くようにしています。医療連携加算取得の為、スタッフの育成、諸条件を整えています。往診して頂ける病院を探している段階です。	○	往診して頂ける病院を探している段階です。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師や家族と連携をとり、終末期の利用者は、出来る限りギリギリまでホームで過ごして頂くようにしています。医療連携加算取得の為、スタッフの育成、諸条件を整えています。往診して頂ける病院を探している段階です。	○	往診して頂ける病院を探している段階です。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む以前に、家族と本人、ケア関係者を交えた実調を行い、十分な話し合いや、情報交換を行なっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常日頃より、利用者を尊敬・尊厳することをスタッフに声がけし、浸透するようにしています。他家族や、外来者に対して、本人のプライバシーに関する情報は、漏らさないように徹底しています。本人の誇りを傷つけるような言い回しをせず、本人の意欲を高めるような言葉掛けを心がけています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	各々利用者の状態に合わせた説明の仕方をし、ちょっとしたこと(好きなメニュー・行きたい所等)でも、本人が選択できる場面を作っています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人一人の状態や思いにより、出来るだけ個別性のある支援をしています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えは利用者の好みに任せているが、自分で決定しにくい利用者にはスタッフが一緒に考えて選んでいます。整髪は、以前から行きつけの理容室で行なったり、利用者に髪の長さ、顔剃りなど、本人の意向を聞いています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材・利用者の好みを取り入れながら、利用者と相談して、メニューを作ったりしています。利用者の状態に合わせて、一緒に食事の準備、片付けをしています。パン・麺類メニューの時は、その都度好みを聞き、嫌いな方には、ご飯を提供しています。バイキングの日を1回/月もうけ、食べたいものを好きなように食べて頂き、食べる楽しみも味わって頂いています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	スタッフは、利用者の嗜好を把握し、利用者とおやつを買いに行ったりと、好みに合わせるようにしています。タバコを嗜好される利用者は、現在のところいらっしゃいません。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を表にチェックし、把握しながらトイレ誘導することで、トイレでの排泄を促しています。また、トイレの場所が分かりやすいように目印をつけています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めるのではなく、利用者とその日の希望を聞き、時間順番を決めています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えています。寝付けないときには、一緒に飲み物を飲む等し、くつろいだ雰囲気でお話する等の支援をしています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・草取り・料理・片付け・雑巾縫い・カラオケ等、利用者の得意とすることに力を発揮して頂ける様にしている。そして、感謝の気持ちを述べ張り合いや喜びへと繋げています。また、ドライブ等の時には、利用者と一緒に相談しながら、行き先を決めています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、小額のお金を持っている方もいます。家族より、お金をお預かりし、事業所が管理している利用者でも、何か入用な場合にはお金をお渡しし、スタッフが同行し、買い物にいくようにしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の気分・希望に合わせて、買い物・ドライブ・日常的な散歩に出かけています。2回/月施設の周りを散歩するのが日課になっている利用者、畑仕事を楽しみにされている利用者もおられます。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない遠距離への外出は、計画を立て、実施日はスタッフの人数を増やしたり、ボランティアで出してもらったりと調整しています。家族に協力して頂くこともあります。月1回以上、ドライブにいけるよう、心がけています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望・願いに応じ、家族と連絡が取れるように自ら電話を掛けて頂いたり、家族に利用者の思いをお話したりしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設けず、いつでも気兼ね無く過ごして頂ける様に尋ねてきた方には笑顔で接しています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎朝のミーティング、申し送り、カンファレンス等で、スタッフ各々が利用者のケアを振り返り、話し合っています。夜間ベッドから落ちる危険のある利用者については、家族に了解を得て、畳に寝ていただいています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を見たら、声を掛け、本人の思いを聞きながら、出来るだけそれに添えるように、一緒に外に出たり、話を充分に聞いたり、鍵を掛けない努力をしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者と同じ空間で、記録などの事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めています。夜間は、数時間毎に利用者の様子を確認すると共に、居室が見通せる場所で休むなど、24時間利用者の安全に配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて全てを取り除くのではなく、ケースに応じた対応をしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリ・ハット、事故報告書を作成し、職員の共有意識を図っています。また、緊急時対応マニュアルを作成し、備えています。見守りは必ずいるよう、職員同士の声掛けを行っています。転倒防止の為、1点杖から4点杖への変更、夜間のセンサー使用等行なっています。また、消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を実施したり、看護婦による看護についての勉強会を開催しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時対応マニュアルを作成し、周知・徹底を図っています。消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修(2回)を実施しました。	○	実際の場面に活かせるよう、定期的に訓練していきます。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアル作成し、年に二回、利用者と避難訓練を行っています。また、消防署の協力を得て、消火器の使い方の訓練も行っています。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけ、何人かの近隣の方に参加いただきました。	○	次回の訓練は、夜間を想定して行います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者各々に起こりえるリスクについて、家族と話し合い、その都度対応し、自由な暮らしが出来るように支援しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握し、日に二回バイタルチェックを実施しています。体調変化があった場合はバイタルサインのチェック・状態記録をし、看護師に報告・対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストの作成をし、すぐに確認できるようにしています。服薬事は本人に手渡しし、きちんと服用しているか確認しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排泄チェックをしながら、白米に玄米を混ぜたり、食物繊維の多い野菜を取り入れ、調理したりと工夫しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の気持ちに配慮しながら、一人一人の力に応じて、スタッフが見守ったり、介助を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、スタッフが情報を共有しながら、利用者の状態に合わせ、支援しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、早期発見・早期対応に努めています。利用者及び家族に同意頂き、スタッフ共にインフルエンザ予防接種を行っています。また、ノロウイルス対策として、ペーパータオルの使用・次亜塩素酸入り消毒液を使用し、掃除等に活用しています。空気清浄機も活用しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾等は、毎日漂白・洗濯し、清潔を心がけています。食材はほぼ毎日、食材会社より直送され、すぐに冷蔵、冷凍庫に保管し使い切るようにしています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の近くに花壇を作り、花や野菜を植え、季節感ができるようにしています。利用者や近隣の方が立ち寄った際に一息つけるよう、ベンチを設置しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔ながらの飾りを取り入れたり、利用者間の人間関係を考慮してのテーブル配置をしています。また、包丁の音、食器を洗う音、調理時の香り等による五感の刺激も大切にしています。夜間は、廊下等にセンサーライトを設置し、光の調整をしています。室内の飾り等に季節感を持たせるよう、生花を飾ったりと工夫しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや玄関外に椅子やベンチ、リビングにソファを設置する等、1人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を飾ったり、掲示したり、仏壇を持ってこられたり、また、家から持ってきた馴染みのものを飾ったりと、居心地の良い居室作りに心がけています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の表情・状態を見ながら、温度、湿度計を見て、換気・冷暖房の調節をしています。空気清浄機も活用しています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に合わせて、浴室・トイレ・廊下・居室等の居住環境に、手すりを付ける等して、安全確保と自立への配慮をしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・居室等に、飾りつけをする等、状況に合わせて環境整備に努めています。スタッフ間で、カンファレンスを行い、利用者一人ひとりが、なにが分からないのか、どうすれば出来るのか、日々検討しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りを散歩できるようにしたり、また、庭に花や野菜を植えたり、玄関外にベンチを置き涼んだりしています。また、リビングから見える所に、花壇を作り、花の鑑賞が出来るように工夫しています。		



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

敷地内に旧家を改装したデイサービスを併設。合同で行事を開催するなど、互いの利用者が交流し、楽しく過ごされています。また、デイサービスには、趣ある庭園があり、毎日敷地を散歩することを日課にしている利用者があります。また、グループホームの敷地を利用し、畑作りをし、農作物（豆）の成長を楽しみにしておられます。